

[学術論文]

# 保健室における「ナラティブ」の意味と教育的効果

——質問紙の自由記述欄の質的分析から——

A Meaning of “Narrative” at Health Office and It’s Educational Effect  
—By a Qualitative Analysis of the free Description in Questionnaires—

安 林 奈 緒 美

Naomi YASUBAYASHI

---

*Studies in Humanities and Cultures*

---

No. 7

名古屋市立大学大学院人間文化研究科『人間文化研究』抜刷 7号  
2007年6月

**GRADUATE SCHOOL OF HUMANITIES AND SOCIAL SCIENCES**

NAGOYA CITY UNIVERSITY  
NAGOYA JAPAN

JUNE 2007

[学術論文]

## 保健室における「ナラティブ」の意味と教育的効果

——質問紙の自由記述欄の質的分析から——

名古屋市立大学大学院人間文化研究科

博士前期課程2年 安林 奈緒美

**要旨** 筆者は、これまでに高等学校の養護教諭として、保健室来室者に対しナラティブ・アプローチを実践し、その効果について一週間後に質問紙調査を行い、その効果の量的評価測定を実施した。質問紙調査による5段階評定法における評価結果については生徒の心の悩み  
の解消に一定の効果が認められ、この点については前回報告した。

そこで今回は、前回と同じ質問紙中の自由記述欄の記載内容を質的に分析し、健康相談活動において養護教諭が実践するナラティブ・アプローチの効果を心の健康回復の観点から教育的効果について評価を試みた。

その結果、健康相談活動におけるナラティブ・アプローチは学校における「隠れたカリキュラム」(イリッチ)から生徒を解放し、「自我同一性」(エリクソン)の獲得、「社会的自我」(ミード)の形成と言う教育的効果を産むことが明らかになった。

これによりナラティブ・アプローチは、職務の多様化、複雑化により急務とされる養護教諭の専門性の確立に対し、重要な柱として位置づけられると言える。

**キーワード**: 養護教諭、健康相談活動、ナラティブ・アプローチ、社会構成主義、

質的評価測定

### I はじめに

本研究の目的は、保健室の健康相談活動において養護教諭が実践するナラティブ・アプローチの教育的効果を質問紙中の自由記述欄の記載内容について、心の健康回復という教育的効果の観点から質的に分析し明らかにすることにある<sup>1)</sup>。

尚、質問紙調査における5段階評定法による評価結果については文献<sup>2)</sup>に記載した。

#### 1. 研究の背景

現代の学校教育の中で、不登校、いじめ、校内暴力、学級崩壊、自殺等が話題にのぼらない日はおそくない。子供を取り巻くこのような環境の中で小・中・高等学校には臨床心理

士を中心としたスクールカウンセラーが配置され、その数は年々増加している。

また、養護教諭に対しても心の健康問題の深刻化に伴い、学校におけるカウンセリング機能を果たすという新たな役割が担わせられるようになった。保健体育審議会答申は：「生涯にわたる心身の健康の保持増進のための今後の健康に関する教育及びスポーツの振興の在り方について」（文部科学省. 1997）と題する答申の中で、「新たな養護教諭の役割」と「求められる資質」を挙げているが、それらに応えるために、養護教諭に適したヘルスカウンセリングのスキルを追求する必要性を感じ、筆者自身の実践について効果の評価を試みることにした。

なお、ここで言うヘルスカウンセリングとは「心因性疾患に対して養護教諭が心身医学的立場から分析し、心理的抑圧原因を解放する趣旨で行うカウンセリング的援助」<sup>3)</sup>をさす。

## 2. 先行研究について

「健康相談活動」における養護教諭の専門性に関する研究は、大学、短大等における養成者側からの研究と学校現場における実践的研究が考えられる。前者の例としては森田光子らの「相談にかかわる養護教諭の力量形成 第1報～7報」<sup>4)</sup>があるがアセスメント、判断の方法・基準、支援方針の立て方等をどのような内容や方法で教授するのかという養護教諭養成カリキュラムの研究である。

後者の研究は養護教諭による実践過程の報告に終始し、実践結果の評価を試みた先行研究は見当たらない。

またナラティブ・アプローチ<sup>5)～7)</sup>を健康相談活動において養護教諭が主体的にアプローチする方法として位置づけ教育的効果に対するエビデンスを求めた研究は皆無である。

## II 研究方法

生徒に対し、ナラティブ・アプローチを実践した1週間後に質問紙調査を行い、自由記述欄の記載内容について質的に分析した。具体的分析方法は以下の様である。

大谷による少量のデータに対しても適用可能であり、特に質問紙の自由記述欄の分析に適しているとされる方法でコーディングする。

### 【コーディングの手順】<sup>8)</sup>

- ① データの中に含まれる言葉を抽出する。
- ② データの中にある言葉を言い換えるようなデータにない言葉を見つける。
- ③ ②と関わるようなデータにない概念でデータの内容を説明するような概念を見つける。
- ④ ③に基づきデータにない構成概念（construct）を創り出す。
- ⑤ 以上を行いながら、同じデータの他の部分や他のインタビューなどと比較しようとする点、フォローアップインタビューが必要だと考える点、文献に当たって調べようと

考える点なども書き出す。

その上で④に基づいて小さなストーリーを作る。

グランデッドセオリーでは、ストーリーラインは最後の最後に作るが、ここでは小さなストーリーラインを作り、それとは別の部分の小さなストーリーラインと比較したり接続したりしながら、できるだけ大きなストーリーラインへと紡ぎ合わせる方法を取る（限られたデータにも適用できるようにするためには、小さなストーリーラインを紡げるようにするのが良いため）。

ここで、分析における恣意性を排除するためにスーパーバイザーを含む複数の意見を取り入れ多様な視点で分析する<sup>9)</sup>。

<研究期間> 平成18年5月1日～平成19年3月31日

<研究対象事例> A高等学校の生徒に対し筆者が健康相談活動においてナラティブ・アプローチを実践した18事例

### Ⅲ 分析結果

研究対象18事例のうち、生徒個人の心の悩みではなく、今日的な緊急課題とも言える生徒の周囲の環境や人との関係性が深く関与していた5事例について概要、ナラティブ・アプローチに要した時間、実施回数、認められた効果を述べるとともに表1に質的分析結果を示した。

尚、個人情報保護を配慮し各事例の概要については、分析結果に影響のない範囲で若干省略した。

<事例1> 高1女子：所要時間1回50分のナラティブ・アプローチを3回実施。

概要：クラスの友人関係がうまくいかない。大勢の人を相手にコミュニケーションをとることが苦手であると訴える。母親の過剰な期待に押し潰されそうだが母親が難病なので心配させたくないと悩む。

認められた効果：精神的な落ち着きを取り戻した。周囲と自己との程よい距離をとることができるようになった。

<事例2> 高2女子：同2回実施

概要：クラス担任による抑圧と不平等な扱いを受けて不登校の前兆を訴える。校内で数回、過呼吸発作を起こすようになっていた。担任に従わなければ大学推薦をしないと交換条件的に責められ自分の進路を担任に潰される恐怖を感じたと訴える。保健室に助けを求めると担任が不愉快そうな態度になる。母親からの束縛も大きく家にも自分の居場所がないと訴える。

認められた効果：生来的に備わっていた前向きに生きる意欲、向上心の喚起。安全と安心感の保障（保健室の空間の特異性）。自己肯定感の向上。

<事例3> 高2女子：同1回実施

概要：クラス担任が苦手、怖いと訴える。自分の言うことは全く聴いてくれない。怒られるので、すぐに謝ってしまい後で後悔すると泣きながら訴えていた。

認められた効果：癒し（養護教諭の持つ癒し機能）。自己への承認欲求の充足。ストーリーテラーを演じている養護教諭をポジティブな人間であり自分の理想とする人間として認識（人間性モデルの獲得）。

<事例4> 高2女子：同1回実施

概要：クラスでの自分は常にクラスメートから頼られてしまい、自分は頼らせてもらえない。父親に勉強のことばかり言われるので家に居場所がない。

認められた効果：ありのままの自己への承認欲求充足。心の鬱積が軽減。養護教諭との対話の中で大切なことに気づくきっかけをつかむ。心と体の癒し効果。自信の回復。

<事例5> 高3女子：同2回実施

概要：クラス内で孤立。家庭では夫が医師であることを誇りにしている母親から一方的な価値観を押しつけられる。子どもの頃は素直に従っていたが、もう自由になりたい、自分の価値観を大切にしたいと訴える。大学進学より就職希望。

認められた効果：自分の希望をみつけ、大学受験をめざすようになった。親の意見との相違における折り合い点を見出した。自己整理ができた。

表1 質的データ（質問紙自由記述）の分析結果

事例	内 要 （「 <u>下線部分</u> 」は自由記述欄内容を示す）	コーディング手順（第II章参照）				
		①	②	③	④	⑤
		テキストの中の言葉	テキストの中の言葉の言い換え	左を説明するようなテキスト外の内容	データにない構成概念	課 題
事例1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスに居場所がない</li> <li>・大勢で人と話すのが苦手</li> <li>・部活動の仲間や地元にはよい友人がいる。</li> <li>・一人ぼっちで人の目が気になる。</li> <li>・家にも居場所がない</li> <li>・母は難病なので心配させたくない。</li> </ul>	居場所がない 大勢が苦手 部活の良い仲間 地元の幼馴染み 一人ぼっち 家に居場所がない	コミュニケーションが苦手 少人数でのコミュニケーションが好き 孤独		コミュニケーションスキルの向上	

<ul style="list-style-type: none"> <li>・「<u>とりあえず、前よりはだいが落ち着いたと思う。周りの目を気にしないようにと決めたら気が楽になった。他人にどう思われようがひとりでも自分をわかってくれる人がいるだけで幸せだと思う。</u>」</li> <li>・ 2度目の来室は数学0点のテストを見せながら来室。友達がいない。やる気がでない。遅刻ばかりしてしまう。</li> <li>・ 来年度は成績上位クラスに入って欲しいという母親の願いに応えられない。</li> <li>・ リストカット</li> <li>・ 過呼吸発作</li> <li>・ 幼馴染みの友人に死ねばと言われ傷つく。</li> <li>・ 担任に友人関係のことで誤解され傷つく。</li> <li>・ 学校にはちゃんとこなきゃと思っている。</li> <li>・ (担任)「保健室を頼っていくと思ったから安心して叱れました。」</li> <li>・ (母親)「養護の先生を大人としての理解者として子どもはみています。保健室は、もう一つの教室みたいです。」</li> <li>・ (担任)「職員室では子どもを否定する会話や指導しなければというような会話で占められていて、結果的に子どもに強くあたってしまう。保健室に来るとモードの切り替えができます。」</li> </ul>	<p>前より落ちついた</p> <p>周りの目</p> <p>自分を解ってくれる人</p> <p>数学0点</p> <p>母親の期待過剰</p> <p>リストカット</p> <p>誤解された</p> <p>保健室が安心の場所</p> <p>大人としての理解者</p> <p>もう一つの教室</p> <p>否定</p> <p>指導</p> <p>子どもに強くあたる</p> <p>モード切り替え</p>	<p>認めて欲しい</p> <p>学校は辞めてはいけない</p> <p>心と体の居場所</p> <p>養護教諭は保健室に存在するひとりの大人</p> <p>ナラティブ・モード</p>	<p>役割期待に不適応</p> <p>自己肯定感の低さ</p> <p>真面目</p> <p>養護教諭が人間性モデル</p> <p>子どもを管理し多数派に属さない子どもに抑圧感を抱かせてしまう学校・教師文化、教室とは違う視点</p>	<p>承認欲求の充足</p>	<p>「自我同一性」(エリクソン)で説明できないか</p> <p>教育社会学</p> <p>養護社会学</p>
--	--	---	---	----------------	---

<p>事例2</p>	<p>・クラス担任が嫌い。 ・不平等な扱いを受けている。 ・大学の推薦が欲しければ自分に従えと言われた。 ・校内で過呼吸を起こす。 ・母親が理解してくれず家に居場所がない。 ・子供のころは大人が教えてくれる的視点で接してくれたのに高校生になると上から物をいってくるようになる。将来はメイクセラピストか福祉に進みたい。 ・「<u>プライベートはずっと引きこもっていたが外に出たくなった。お化粧をして自分を元気にするとかいろいろやっている。進学のために学校見学に行く。推薦がもらえないと思って落ち込んでいたが先生と話す中で自己推薦の道があることがわかったから。</u> <u>リハビリメイクの道に進み人を元気にしてあげたい。</u> <u>目標ができて、やればできるかなと思えた。先生と話すとき持ちは楽になる。苦しくなれば行ける場所があると思えるから安心できる。先生なんてうざいと思っていたがいい先生もいてわかってくれる先生もいるんだなあと思えた。」</u></p>	<p>クラス担任が嫌い 不平等 推薦が欲しいなら担任に従え 過呼吸 母親の無理解 居場所がない わかってくれる先生人に元気をだしてもらいたい。 目標が見つかる 前向き いろいろなことをやってみようと思えた。 気持ち楽になれる 苦しくなれば行ける場所 安心できる解ってくれる先生</p>	<p>親からの自立 目標探し 人の役に立ちたい 存在意義 子どもと対等な存在 アイデンティティの形成 社会的自我に対する反発 向上心 生きる意欲</p>	<p>担任の教育力不足 担任は人間性のモデル 隠れたカリキュラムの存在 担任にとっての問題児 自我形成の時期 発達段階 自由と責任 教師は上に立つ権威者ではない。 安全の保障 守られる権利 人間は本来、伸びたい意欲をもっている存在 自己肯定感の向上</p>	<p>学校教育の矛盾点の反映 「自我同一性」(エリクソン) 「社会的自我」概念(ミード)で説明できないか フリースクール(サマーヒル) 生徒の自我発達の時期と一致 学校で感じた矛盾点を自己の内面にまで投影する。 子供の権利条約</p>
<p>事例3</p>	<p>・担任が苦手 ・いつもいい子でいました</p>	<p>担任が苦手 いつもいい子でいました</p>	<p>担任の教育力不足</p>		

保健室における「ナラティブ」の意味と教育的効果

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・彼氏ができてから外泊してしまい親に心配かけている。</li> <li>・担任が怖いのですぐ謝ってしまい担任に調子だけいいやつと思われている。</li> <li>・先生のように私の話を聞いたうえでどうすべきなのか一緒に考えてくれたので嬉しかった。</li> </ul> <p>(担任)「親に暴言をはい、親も手を焼いている。小、中ともに不登校経験がある。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションが苦手。</li> <li>・彼の家族とトラブルが起きているのにテストを受けなければ大学推薦しないといわれる。</li> <li>・私のことを担任は二重人格と決めつけて、子供としての義務をはたしていないと言われた。</li> </ul> <p>「先生と話すとき落ち着く。一人でも自分をわかってくれる人がいると救われる。随分自分が変わりました。担任は私を全て否定するのでどうしてよいのかわからなかった。私と先生はかなり違う。<u>(先生は) ポジティブ。母とも冷静に話せた。あの日6限になってから授業に出ても担任が何も言わなかったのでよかった。</u></p>	<p>担任が怖い</p> <p>親に暴言</p> <p>不登校経験</p> <p>コミュニケーション下手</p> <p>二重人格 子どもの義務</p> <p>落ち着く</p> <p>解ってくれる 救われる 話を聞いてくれる 全てを否定</p> <p>ポジティブ</p>	<p>担任のドミナント・ストーリー</p> <p>問題児のレッテル貼り</p> <p>癒し効果</p> <p>承認欲求</p>	<p>ナラティブ</p> <p>養護教諭の持つ癒し機能</p> <p>担任の抱くドミナント・ストーリー</p>	<p>養護教諭が人間性モデル</p> <p>担任教諭へのナラティブ・アプローチ</p>	<p>社会的自我 (ミード)</p> <p>自我同一性 (エリクソン)</p>
<p>事例 4</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・頭痛、めまい。</li> <li>・クラスの仲間に頼られてばかりで頼らせてくれない。</li> </ul>	<p>頼られてばかり</p>		<p>他者による自己への過大評価</p>		<p>社会的自我 (ミード)</p>



	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスがうるさく授業が不成立。</li> <li>・家でも成績のことでしかられて居場所がない。</li> <li>・夜中の吐き気、朝の腹痛、発熱、学校に来たくない。</li> <li>・担任が頼りない。・ナース希望。「ナースを目指す人は神に選ばれた人だよ」と言う表情が輝いた。</li> </ul> <p>「先生、お話を聞いてくれてありがとう。          心の中に溜まっていたものが軽くなった。本当は話せないかも思っていたけど先生の前に座ったら自然と言葉がでてきた。学校に居場所がなく、先生にも叱られて目標を失っていた。ちゃんと学校に来いと言われてばかりでわかってくれない担任がとても嫌だった。          他の先生も休むなど言うばかりで、こんな学校の先生なんていなくなればいいんだと思っていた。でも保健の先生は違った。本当に嬉しかったよ。先生が言ってくれた言葉で大切なこといっぱい気づいたよ。ちゃんと頑張れるようになったよ。また疲れたら保健室に行くね。」</p>	<p>居場所がない</p> <p>心の中に溜まっていたものが軽くなった</p> <p>自然と言葉が出た</p> <p>目標を見失う</p> <p>解ってくれない先生</p> <p>言ってくれた言葉 気づき</p> <p>疲れたら行く</p>	<p>心の鬱積の軽減</p>	<p>心身症様の症状出現</p> <p>承認欲求の充足</p> <p>自己解放</p> <p>保健室のムードづくり</p> <p>目標の確認 担任文化 学校文化</p> <p>癒し 心と体の居場所</p> <p>生きる意欲 ・向上心・ 自信の回復</p>	<p>自己解放</p> <p>保健室の視点</p> <p>保健室の文脈</p> <p>ナラティブ</p>	
<p>事例5</p>	<p>2年生から3年生へのクラス替えで女子の知り合いがひとりもいなかった。ひとりで辛い。人見知りするほうなので精神的に不安定で自分を傷つけることもあった。今は</p>	<p>知り合いなしのクラス替え</p> <p>人見知り 精神不安定 自分を傷つける</p>	<p>孤独</p> <p>自傷行為</p>		<p>コミュニケーションスキルの向上</p>	

<p>それではすまず、逃げ出したり、体に変調をきたす。家庭にも問題があって居場所がない。私の家族は仮面家族。仲がよさそうでも中身は恐ろしい。お金や学歴が第1という親の考え方が肯定できない。</p> <p>親には何ひとつ本当のことを言ったことがない。高校卒業すらできないのに大学へ行けと言われる。父は開業医、母は父と合コンで知り合い玉の輿にのったと言って自慢し私は玉の輿にのれと幼い頃から母に言われてきた。</p> <p>子供のころは親を信じて勉強ばかりしていたが中2から変わった。不良とつきあった。不良と呼ばれている人達のほうが余程人間的に素晴らしい。</p> <p>両親は親だから仕方なくつきあっている他人ならつきあいたくない人たちだ。日本は急ぎすぎ、17年間は早すぎた。いろいろな体験をしすぎた。親の知らない顔をたくさん持った。万引き、リンチもやった。</p> <p>あ一人と話すのはいいなあと言って出ていった。</p> <p>&lt;面接日&gt;</p> <p>表情は明るい 姉と話したがわかってくれなかった。</p> <p><u>「姉のキラキラは大学生活、私のキラキラは働いて平凡に暮らすこと。早く家を出て結婚したい。思い通りの家族をつくりたい。この夢はあきらめない。今度こそ親のほうをあきらめさせてやる。しばらくゆっくり暮らし</u></p>	<p>体調異変 家庭にも問題、居場所がない、仮面家族</p> <p>親の考え方が肯定できない</p> <p>玉の輿</p> <p>子どものころは疑いなし</p> <p>不良との付き合い</p> <p>不良の人達の方が人間的に素晴らしいし優しい。両親は親だから仕方なくつきあう</p> <p>日本は急ぎすぎ 体験しすぎ</p> <p>人と話すのはいいなあ</p> <p>姉のキラキラは大学生活、私のキラキラは働いて平凡に暮らすこと、早い結婚、思い通りの家族、今度はあきらめない、ゆっくり暮らしたい</p>	<p>心身症様症状 家庭内で孤独</p> <p>自分なりの価値観 親を尊敬できない</p> <p>焦り、苛立ち</p> <p>家族とは異なる価値観</p>	<p>役割期待に不適応</p> <p>親とは異なる価値観</p> <p>一時的な逸脱行動</p> <p>価値観を模索</p>	<p>アイデンティティの模索</p> <p>コミュニケーションの意欲回復</p>	<p>自我同一性 (エリクソン)</p>
---	---	---	--	--	----------------------

<p><u>たい。先を急ぎたくない。</u> <u>何とか卒業までやれそう</u> <u>な気がしてきた。」</u></p> <p>「じゃあ買い物に行きますから。」と気遣いと挨拶ができるようになった。</p> <p>しばらく時間が経過し卒業に近い日、帰りがけに偶然会う。「私、大学受かったよ。3つとも受かったけどK大学に行くよ。もう卒業だよ。卒業しても来るよ。保健室に行くよ。」と語った。</p>	<p>何とか卒業までやれそう</p> <p>気遣い</p> <p>大学合格卒業</p>	<p>卒業する意欲</p> <p>挨拶</p>	<p>目標確認</p> <p>社会性</p>		
--	---	-------------------------	------------------------	--	--

#### IV 考察

##### 1. 健康相談活動において養護教諭が実践するナラティブ・アプローチの効果

各事例について縦断的追跡調査研究の必要性はあるが、本研究の段階では弊害と思われるような悪い効果や効果なしと言う結果を示した事例は一事例もなかった。

養護教諭が実践するナラティブ・アプローチの効果を以下に述べる。

生徒が養護教諭に自己を語ることで心と体の両面から癒され安心感を得ることにより自己への承認欲求が充足され自己肯定感が高まり、養護教諭との対話の過程で自己整理がつき、生徒が人間として生来的に備えている生きる意欲や向上心が喚起された。

自我発達の面からは「隠れたカリキュラム」(イリッチ)からの心理的解放がなされ、「自我同一性」(エリクソン)の獲得や、「社会的自我」(ミード)<sup>10)</sup>の構成を促した。

また、ストーリーテラーを演じる養護教諭を理想の人間性モデルとして生徒が認識することにより新たな関係性の構築がなされ、校内において養護教諭がキーパーソンとなり生徒の支援に当たる等、以後の学校教育活動の資源としてこの関係性を活用することができた。そして最終的には生徒が周囲とのオルタナティブな関係性を構築し学校や家庭に順応していくことを可能にすることができた。

##### 2. 保健室における「ナラティブ」の意味

社会構成主義を理論的背景に持つナラティブ・アプローチは人々を解放し自由な気持ちにすることができる。これは、発達過程にある高校生においても同様であることが前回並びに今回の研究結果から明らかになった。

社会構成主義は、この20年の間に社会科学で発展した哲学的アプローチであり、「心」「体」「情動」といった心理的構成概念を社会的構成概念として再定義する方向性を備えて

いる。

しかし一方では、ある事柄が社会的に構成されたものだとする分析は、常に人々を束縛から自由にする力を持ち合わせているわけではないと言う批判もある。イアン・ハッキングは拒食症を例に挙げて次のように述べている<sup>11)</sup>。

「社会的構成についてのどのような直観的理解に照らしても拒食症は、少なくとも部分的には社会的構成物であるに違いない。少なくともそれは、ある特定の地域ある特定の時代にのみ流行する症例、常住性の精神疾患ではある (Hacking 1998)。けれども、そのような分析を施してみても拒食症にかかっている少女や若い女性の症状はいっこうに改善されない。ある事柄が社会的構成物だと言う主張は、すでに解放への軌道に乗っていた人たちを、さらなる自由へと一層後押しするだけの力しかもたないのである」。

つまり、イアン・ハッキングは社会構成主義は常に人々を解放するものではない。社会構成主義とは一体、何が社会的に構成されるのか。その実態は眉唾物であり、自己まで一種の構成物だと宣言することで人々を解放できると考えるのではなく、まず、最初に個々人の「自己」なるものが存在し「社会」が成立するのはその後であると考えたほうが自然であると主張している。イアンによれば、筆者の見解として前述した、G. H. ミードの社会的自我の構成やエリクソンの自我同一性の獲得に効果が認められたという考察は、そもそも自我の概念が異なるのであるから眉唾物とされるのかもしれない。

しかし、保健室における「ナラティブ」の意味は、このような哲学的議論以上のものがある。

例えば、ジョン・マクレオッドは次の様に述べている<sup>12)</sup>。

「心理療法と文化をつなぐ根源的な結節点としての、ストーリーや物語ることの意味を明らかにするなかで、人は個人的なストーリー、たとえば「私はどんな人か」「私はどのようになりたいか」「私を悩ませているのは何か」といったことを語ります。そのような場面において聞き手や聴衆は、そのストーリーを聴くことが求められます。私たちが日々生きている文化において<ストーリーを聴く>ことは、当然のこととして求められるのです。人は、このような物語ることを通して集団の一員となり、その集団が生きている現実を共有し、共に生活していくことが可能となります。物語ることが媒介となって、個人と集団の現実生活がつながっていく仕組みとなっているのです。私は、どのような文化にあってもこのような仕組みが備わっていると思います」。

現代の学校の中には、周囲と同調することで、いじめられないようにすることに汲々としている子どもの姿がある。個性を主張して学校の中で行動することは、さまざまなトラブルの元凶になりかねないのである。そのように集団内で自己を見失いそうになった時、子どもはひとりになれる保健室を求めてやってくるのではないだろうか。そこで養護教諭と出会い、自己のドミナント・ストーリーを語り養護教諭が聴衆及びストーリーテラーとなり、共同で新たなオルタナティブ・ストーリーを紡ぎだし、集団と自己との折り合い点を発見し、自己を立て直し、再び集団の中に帰っていくと推察される。

従って、学校内において保健室は、集団活動や成績という文脈で成立する教室や心の病という文脈で成立する相談室とは異なり、個人の心や体を総合的に捉えるという文脈で成立していると言える。このような特徴を備えている保健室において語ることの意味は、抑圧された自己からの解放とオルタナティブ・ストーリーの成立を心と体の両面から可能にし、その結果、心の健康回復という教育的効果を促すことにある。

## V まとめと今後の課題

養護教諭の行う健康相談活動における専門性のひとつとしてナラティブ・アプローチを位置づけることについては確かに教育的効果が認められた。しかし、ナラティブ・アプローチには次のような限界もあった。保健室で養護教諭と生徒の関係性において相互作用的に創出されたオルタナティブ・ストーリーが、生徒が教室に戻ってからクラス担任などにより指導と言う名のもとに、再びドミナント・ストーリーに書き換えられてしまい持続が困難であった。

また生徒の抱える問題が変わった時にも、生徒自身が、社会構成主義的な思考ができ、心の健康を保つことができるということをナラティブ・アプローチの最終的な目標においたが、残念ながら達成できなかった。

前者の限界については、学校全体がナラティブ・モードで構成されるよう保健室の視点を学校全体に取り入れるための発想の転換や組織だった取組みが望まれる。後者の限界については、予防的観点から系統的な授業として物語的な思考や社会構成主義的な思考について養護教諭が授業を担当し教授する方法が考えられる。

今後は学校教育の中でナラティブ・アプローチの実践が養護教諭の新しい可能性として根付くために養護教諭が実践するためのナラティブ・アプローチの理論化とそれを習得するための教育プログラムの開発が課題である。

## 引用・参考文献

- 1) 安林奈緒美：高校生の心の悩みに対する養護社会学的実践—保健室におけるナラティブ・アプローチの効果—, 第77回日本衛生学会総会講演集, No.P415, (日衛誌 62, 2, 697), 2007
- 2) 安林奈緒美：「健康相談活動」におけるナラティブ・アプローチとその有用性, 名古屋市立大学大学院人間文化研究科『人間文化研究』No.6, 121-135, 2006
- 3) 杉浦守邦：養護教諭のための診断学（内科編）, 13, 東山書房, 2005
- 4) 森田光子他：「相談にかかわる養護教諭の力量形成 第1報」, 日本養護教諭教育学会誌第2巻, 第1号, 1999, 他
- 5) 江口重幸, 斎藤清二, 野村直樹編：ナラティブと医療, 金剛出版, 2006
- 6) 森岡正芳：物語としての面接, 新曜社, 2002
- 7) 森岡正芳：うつし臨床の詩学, みすず書房, 2005
- 8) 大谷尚：「質的研究手法による記録（データ）の分析」, 日本質的心理学研究交流委員会企画セミナー,

ワークショップ資料, 1-3, 2007

- 9) ウヴェ・フリック著, 小田博志, 山本則子, 春日常, 宮地尚子訳: 質的研究入門, 春秋社, 2004
- 10) 船津衛: ジョージ・H・ミード——社会的自我論の展開, 東信堂, 2000
- 11) イアン・ハッキング著, 出口康夫, 久米暁訳: 何が社会的に構成されるのか, 5, 岩波書店, 2006
- 12) ジョン・マクオレド著, 下山晴彦監修, 野村春夫訳: 物語りとしての心理療法, 4, 誠信書房, 2007

(研究紀要編集部は、編集発行規程第5条に基づき、本原稿の査読を論文審査委員会に依頼し、本原稿を本誌に掲載可とする判定を受理する、2007年5月8日付)。